



《観照》の中で

《五感の黙器》は、「器」という完成形へ向かうのではなく、時間の中でゆるやかに変化し続けている。

裂け目、孔洞、焼成痕、沈んだ内部。

それらは積み重なった時間の層として、静かに空間へ留まり続けている。

陶土、砂石、鏡面、苔によって構成された空間には、乾いた質感と湿度、重量と空洞、静けさと気配が同時に宿っている。

断片は互いに孤立することなく、緩やかに呼応しながら、見るという感覚そのものにわずかな揺らぎを生み出していく。

鏡面に映り込む像は固定されない。

光、距離、身体の移動によって空間内部の層は絶えず変化し、視線は表面に留まることなく、孔洞や裂隙の奥へと静かに導かれていく。

《観照》において本作は、視覚だけによる鑑賞から少しずつ離れている。
形は生成と漂流のあいだに留まり続け、内と外、存在と空白はゆるやかに交錯しながら、感覚の深層へと接続されていく。

それらは遺物のようでもあり、感覚の断片のようでもある。
そこには、身体がかつて触れていた痕跡と、火と時間を経たあとの沈黙が静かに残されている。

《五感の黙器》并未朝向“器物”的完成形态。裂痕、孔洞、烧成痕迹与沉入内部的黑暗，如同时间缓慢堆积后的层次，静静停留于空间之中。

陶土、砂石、镜面与青苔共同构成的空间内部，同时保留着干燥与湿润、重量与空洞、静止与气息。这些断片彼此并不孤立，而是在缓慢回应之中，使观看逐渐偏离单一的视觉判断。镜面中的映像始终处于变化之中。

随着光线、距离与身体移动，空间内部的层次不断发生变化，视线也不再停留于表面，而是被缓缓引向孔洞、裂隙与内部深处。

在《観照》中，本作正逐渐脱离仅由视觉构成的观看方式。形体始终处于生成与漂移之间，内与外、存在与空白持续交错，使感知逐渐与更深层的身体意识相互连接。

这些存在像遗迹，也像感官残片。其中保留着身体曾经停留过的痕迹，也保留着火与时间经过之后的沉默。

テキスト | 王麗欣

Artist | 水谷哲野 みずたに てつや 1968-



- 1968年 中国・武漢生まれ。京都を拠点に活動。
- 1989年 武漢紡織図案設計専科 卒業
- 1994年 初個展（ギャラリー虹 / 京都）
- 1999年 パンリアル展（京都市美術館）
- 2001年 第33回 京都野外彫刻展
（京都府立陶板名画の庭）
京都プリンスホテル彫刻展
京都彫刻家協会展 入選
出展作品買上
作品設置（静岡県浜松市・静岡市）
- 2002年 第34回 京都彫刻家協会展
（以後継続出展 / 京都府立文化芸術会館）
京展 入選（京都市美術館）
第17回 国民文化祭鳥取2002 美術展 [彫刻部門] 入選
- 2003年 第21回 天理ビエンナーレ 入選
（天理教教会本部）
第35回 京都野外彫刻展 受賞
京都府作品買上
作品設置（京都府舞鶴南港公園）
- 2004年 個展（ギャラリーアートイチキ / 大阪）
京展（京都市美術館）
- 2005年 第1回 秋の府庁旧本館彫刻展
（以後継続出展）
- 2007年 とよた美術展07 入選
（豊田市美術館）
中国文化芸術祭美術作品展 個展
（大阪国際交流センター画廊）
- 2008年 第2回 湖都百景芸術大賞展
産経新聞社賞 受賞
- 2010年 第20回 富嶽ビエンナーレ 入選
（静岡県立美術館）
- 2011年 第5回 湖都百景芸術大賞展
大津市教育委員会教育長賞 受賞
- 2014年 第8回 湖都百景芸術大賞展
京都新聞社賞 受賞

その他、公募展・グループ展多数出展。

京都の彫刻発表体系を軸に、野外彫刻、公共空間、立体構造表現を継続的に展開。
京都野外彫刻展受賞、京都府作品買上をはじめ、京都市美術館、京都府立文化芸術会館、豊田市美術館、静岡県立美術館など、日本の主要な彫刻・公募発表の文脈の中で活動を続けている。

近年は、陶土、砂石、鏡面、苔などを用いながら、物質と空間感覚の関係性を探求。
重量感と静けさ、裂隙と余白を内包した造形によって、空間内部における感覚の揺らぎと「間」の生成を静かに立ち上げている。

长期以京都雕塑体系为核心持续创作与发表。

曾参与京都野外雕刻展、京展、富岳双年展、丰田美术展等日本重要雕塑与公募体系，
并有作品被京都府收藏及设置于公共空间。

其作品持续围绕材料、空间与感知关系展开。
重量感、裂隙与静默气息在其造形中彼此并置，
使空间内部始终保留着一种缓慢生成中的“间”与感知状态。

観照 KANSHŌ — Heart Sutra as Living Axis

般若心経と現代芸術

2026年5月26日 — 5月31日

kokoka 京都市国際交流会館

Reino-e Gallery Kyoto

www.reino-e.jp

info@reino-e.jp